

だから、例えば、体の調子が悪くても、「私は、健康だ!元気!!」となりたいた姿を言葉に出すと、従来の脳は、健康な自分が現実だと思い、体は健康な自分になろうとするわけです。

実際私は、交通事故の後遺症でむちうち症に苦しみましたが、「お前は、どんどん良くなる!!」と毎日鏡の前の自分に言い聞かせ、克服しました。20年前に事故の調停書にサインしてから一度も医者にかかってません!!

運命も同じ。悲運なときも「私は幸運だ!!」と言いつづけましょう!!

② (誰に言ってるのかわからない)

そんなこといっても、私は自分が嫌いだから、自分を良くは言えない。というすごくナイーブなあなた。ご安心ください。

従来の脳は、人称がわからないらしいのです。

つまり、誰に向かって放った言葉かが、わからないのです。

だから、自分を良く言えないなら、まず人を誉めましょう!!

例えば、きれいにはなりたいけど、とても自分をきれいなんて言えないなら、周りを誉めてりゃいいんです。「○○さん、いつもきれいね」と、ほめ上手になれば、自分がきれいになれるんです!!

③ (最後に)

最初はウソでもいいんです。

ウソでもいいから、心地よい言葉だけを語りつづけましょう。

そうすれば、幸せが近寄ってきますから! さあ、誓いましょう!

「どんなときも、何があっても、今日からは、わが舌に悪を語らせまい!!」



ENJOY!着物のコーナー

着物の紋様のはなし

一、山や川をはじめ、針一本にいたるまで、万物に神を感じ(八百万の神)、感謝し、周囲との調和を重んじるのが、和の心。

さまざまな物に神を感じ重んじる日本人ですから、着物の紋様は、森羅万象、多岐にわたります。

【植物】桜、梅、松…

【動物・生物】亀・鯉…

【風景・自然】波・流水…

【文芸・器物】亀甲…

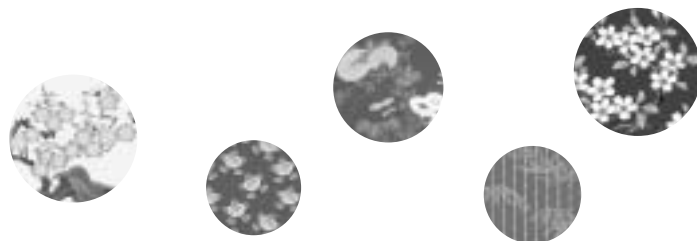
【幾何学】縞・格子…

【その他】文字… などなど。

そのなかでも、多いのが植物紋様。着物といえば、花柄をイメージされる方も多いのでは?



2008年4月
和想館講演会より



確かに花をはじめとする植物柄は、世界の衣服に多く用いられています。

そのなかでも着物の場合は、その植物の美しさだけでなく、その植物のもつ生命力、象徴性まで読み込んで描かれているのが、特徴です。例えば…

二、①桜

日本人が大好きな桜。桜は田植えの時期の前に花を咲かせますね。このことから穀物の霊が宿るといわれてきました。

桜の開花時期により稲を植える時期を決め、花の散り方で米の出来具合を予想したそうです。そして開花した桜を見上げて神に豊作を祈り、酒や肴の捧げものをしたのが、お花見のはじまり。

桜の花は豊作につながることから縁起の良さ、また生きるエネルギーも現します。

②梅

梅は奈良時代に遣唐使により中国より伝来。厳寒の中に蕾を育ませ、春に先駆けて気高い香りに包まれた美しい花を咲かせることから、運を呼び込む縁起もの、また薬草とされてきました。紅梅一魔よけ、厄除け 白梅一無垢、潔白を表します。

寒空に向きまっすぐに枝を伸ばし、香り高い花を咲かせる様から、奈良時代の貴族は凛々しさのシンボルとしました。そして花といえば梅とされるくらい人気があった。

③竹

風雨に負けず、天にむかってまっすぐに伸び、なかなか折れないしなやかさと数多い節目が、人生の生き方のお手本となり縁起のいいものとされ、さらに天につながることから神の依り所とされてきました。

また竹は地下茎でしっかりと根をはり繁殖力旺盛でありことから、子孫繁栄の意味も込められています。

三、最後に

着物に描かれている紋様には、花一つとっても、このようにそれぞれに意味があります。もっと詳しく知りたい方は、ぜひ講演会にお越しください。

紋様の意味に着目すると、さらに着物が愛おしく感じられることでしょう。

